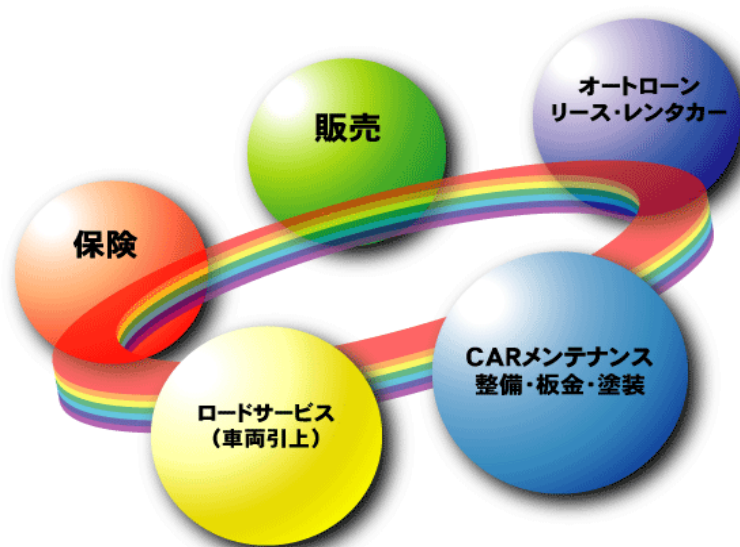


環境経営レポート

2024年(令和6年)度版 【2024年1月1日 ~ 12月31日】



発行日: 2025年(令和 7年) 2月 17日

"お客様の満足を願う" をモットーに
辰口自動車販売(株)



目 次

1、経営理念・環境経営方針	P 1
2、事業所の概要	P 2
3、実施体制	P 3
4、役割と権限	P 4
5、環境経営目標とその実績	P 5、6
6、今後 3年間の環境経営目標	P 7、8
7、令和 6年度の環境経営計画と結果・評価	P 9
8、令和 7年度の環境経営計画の具体的な取り組み内容	P 9
9、環境関連法規等の遵守状況確認及び評価の結果	P 10
10、代表者による全体の評価と見直し・指示	P 11

経 営 理 念

辰口自動車販売株式会社は、自動車販売、整備、钣金塗装、ロードサービス、保険、リサイクルなど、自動車に関わる企業として、「環境にやさしい自動車整備」はもちろん、更なる向上、継続的な環境保全に努力します。

環 境 経 営 方 針

当社は自動車販売企業として、環境活動自己チェックを元に以下の活動をしていきます。

- 1、すごしやすい環境にする為、二酸化炭素の排出(特に電気の使用)を減らします。
- 2、捨てるゴミを少なくして、使用できるものは再利用します。
- 3、水の使用量を少なくします。
- 4、自動車部品のリサイクルに取り組みます。
- 5、全社員が環境に対しての教育を計画的に実施し、会社全体で環境に対する意識の向上に努めます。
- 6、環境関連法規制や当社が約束したその他の要求事項を守ります。
- 7、この環境方針は、当社従業員への周知徹底を図り、必要に応じて公開します。

2008年 7月 1日制定
2021年 1月15日改定

辰口自動車販売(株)

代表取締役 室谷 眞一

2、事業所の概要

1) 事業所名及び代表者名

辰口自動車販売株式会社

代表取締役社長 室谷 真一

2) 所在地

辰口自動車販売株式会社

①本社工場

〒923-1231 石川県能美市上開発町ハ68番地

②白山店（マイカーリース専門店）

〒924-0052 石川県白山市源兵島町634番1

③TMコーポレーション西泉店（辰口自動車・保険部）

〒921-8043 石川県金沢市西泉2丁目11番地1

④保険クリニック 金沢フォーラス店

〒920-0849 石川県金沢市堀川新町3-1 金沢フォーラス 5F

対象事業所は①、②、③

3) 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者

代表取締役 専務 室谷 和規

連絡担当者

取締役 山川 貢

連絡先

TEL 0761-51-3144

FAX 0761-51-3950

e-mail info@tatsukuchi-motor.co.jp

4) 事業の内容

自動車販売、整備、钣金塗装、ロードサービス、保険、リサイクル、レンタカー、リース

5) 事業の規模

設立年月日

昭和40年

資本金

1,000万円

従業員数

38名

2024年度実績

・本社工場	総在庫台数	6,131 台
・白山店	販売台数	21 台
・TM西泉店	損害保険売上	24,918 万円

6) 環境活動レポートの公表の方法

- ・当社にて、書面での備え付け閲覧に供します。
- ・社外から要望があれば差し上げます。

7) 認証登録範囲

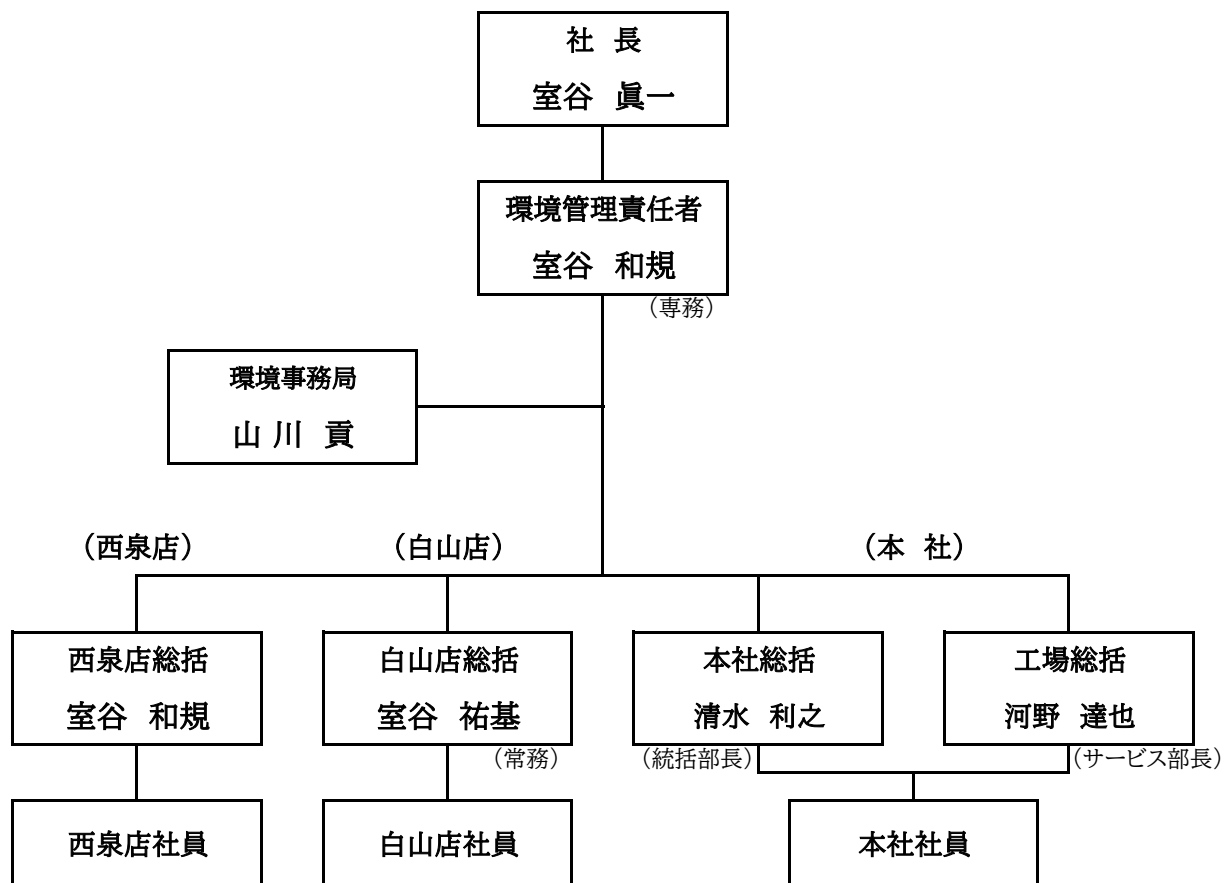
- ・対象事業所 本社工場、白山店、TMコーポレーション西泉店（保険部）
- ・事業活動 自動車の販売・整備業、钣金塗装業、ロードサービス業、保険募集業、自動車リース業

3、実施体制

エコアクション21 実施体制

(2024年度版)

令和 6年1月15日作成



4、役割と権限

役 割	担 当 者	責 任 と 権 限
代 表 者	社 長 室谷 真一	1. 環境管理責任者の任命 2. 環境経営方針の策定 3. 環境経営システムの実施・管理に必要な資源の準備 4. 代表者による全体の評価と見直し, 指示 5. 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	専 務 室谷 和規	1. 環境経営システムの確立及び実施、維持 2. 環境負荷、取組み状況の把握及び評価 3. 環境経営目標、環境経営計画の策定 4. 緊急事態対応手順の策定 5. 取組み状況の確認と評価及び報告 6. 問題点が発生した場合の是正処置等の指示
環境事務局	山 川 貢	1. 環境管理責任者の補助 2. 環境関連法規等のとりまとめ及び最新情報の収集 3. 環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画の立案 4. 緊急事態対応手順の立案 5. 取組手順書の作成 6. 各部門(店舗)の取組み状況のとりまとめ 7. 教育・訓練計画の作成 8. 文書・記録簿の管理 9. 環境経営レポートの作成・公表
各 部 門 各 拠 店	部門長 拠点長	1. 部門の環境経営システムの確立・実施の推進 2. 部門の環境経営システムの策定 3. 教育・訓練の実施 4. 外部からの苦情への対応及び環境管理責任者への報告 5. 緊急事態対応訓練の実施 6. 部門の取組み状況の評価及び環境管理責任者への報告 7. 問題点が発生した場合の是正処置等の実施 8. 環境経営方針の理解と積極的な取組み
全従業員		1. 部門の環境経営目標への積極的な取組み 2. 問題点・改善点の積極的報告・提案

4、環境経営目標とその実績

1) 実績と評価

① 本社工場

A) 二酸化炭素排出量

(購入電力の排出係数は、中央電力の排出係数(0.568)kg-CO₂/kwhを使用する)

	単位	令和04(2022)年度 実績	令和05(2023)年度 実績	令和06(2024)年度 目標	令和06(2024)年度 実績	実績/目標	前年度比
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	138,537	134,032	132,691	120,708	0.91	0.90
総在庫台数	台	6,060	6,216	—	6,131	—	0.99
総在庫台数原単位	kg-CO ₂ /台	22.9	21.6	—	19.7	—	0.91
内訳 電気	kwh	151,699	137,728	136,341	124,338	0.91	0.90
ガソリン	ℓ	8,127	10,723	10,616	9,984	0.94	0.93
軽油	ℓ	1,767	1,763	1,754	2,072	1.18	1.18
灯油	ℓ	11,164	10,593	10,487	8,665	0.83	0.82

1) 二酸化炭素排出量は、目標値の 9%減となった。

2) 電力使用量は、目標値の 10%減となった。また最大デマント値を下げ、今後の基本料金のダウンにつなぐ。

☆7月より電力会社を、レジル(株)から日本テクノ(株)へ変更し、

最大デマント値を下げる為、スマートクロック・メーターを設置し30分デマント値を目視で管理。

※最大デマンド値で1年間の基本料金が決まるため、使用量の多い時期に30分デマント値を下げる必要がある。

(使用量は同じでも基本料金が安くなり、電気料金総額はダウンする。)

3) 軽油は18%増となったが、ガソリン+軽油合計では 3%の減である。

4) 灯油は暖冬の影響もあり17%の減となった。

B) 産業廃棄物排出量

	単位	令和04(2022)年度 実績	令和05(2023)年度 実績	令和06(2024)年度 目標	令和06(2024)年度 実績	実績/目標	前年度比
廃油(有価物)	kg	7,568	7,353	量の目標は立てない、マニフェストにより適正管理。	7,869	—	1.07
廃タイヤ	kg	6,145	9,786		9,736	—	0.99
廃プラスチック	kg	1,520	2,120		2,815	—	1.33

※廃油・廃タイヤは、販売量により増減する。

廃プラスチックも、車両の修理内容によって増減する。

C) 水の使用量(排出量)

	単位	令和04(2022)年度 実績	令和05(2023)年度 実績	令和06(2024)年度 目標	令和06(2024)年度 実績	実績/目標	前年度比
上水	m ³	292	292	286	260	0.91	0.89
地下水	m ³	6,215	3,775	3,740	831	0.22	0.22
合計	m ³	6,507	4,067	4,026	1,091	0.27	0.27

※地下水は①洗車と②融雪に使用

①洗車はガソリンスタンド洗車機を使用

②降雪は殆んど無かった

ため、大幅に減少している。

D) 環境に配慮した自動車の販売

	単位	令和04(2022)年度 実績	令和05(2023)年度 実績	令和06(2024)年度 目標	令和06(2024)年度 実績	実績/目標	前年度比
--	----	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	-------	------

※現在 新車・中古車においては全て低公害車です。

② 白山店（令和2年度より追加）

A) 二酸化炭素排出量

	単位	令和04(2022)年度 実績	令和05(2023)年度 実績	令和06(2024)年度 目標	令和06(2024)年度 実績	実績/目標	前年度比
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	16,241	16,148	15,987	15,608	0.98	0.97
販売台数	台	25	24	—	21	—	0.88
総販売台数原単位	kg-CO ₂ /台	649.6	672.8	—	743.2	—	1.10
内訳 電気使用料	kwh	28,592	28,427	28,143	27,480	0.98	0.97

※電気使用量は、ほぼ目標値となった。

（電気使用量の内訳として・事務所空調&灯火-75% ・動力-25%）

B) 産業廃棄物排出量

	単位	令和04(2022)年度 実績	令和05(2023)年度 実績	令和06(2024)年度 目標	令和06(2024)年度 実績	実績/目標	前年度比
廃油	kg	1,032	903	量の目標は立てない、マニフェストにより適正管理。	774	—	0.86
廃タイヤ	kg	1,532	1,424		2,914	—	2.05
廃プラスチック	kg						

※廃油・廃タイヤは、販売量により増減する。

③ TM西泉店（保険部）

A) 二酸化炭素排出量

	単位	令和04(2022)年度 実績	令和05(2023)年度 実績	令和06(2024)年度 目標	令和06(2024)年度 実績	実績/目標	前年度比
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	13,307	12,274	12,152	11,795	0.97	0.96
損害保険実績	万円	24,623	24,406	25,558	24,918	0.97	1.02
損害保険原単位	kg-CO ₂ /万円	0.54	0.50	0.48	0.47	1.00	0.94
内訳 電気使用料	kwh	23,429	21,609	21,393	20,767	0.97	0.96

※昨年は猛暑であったが節電の結果、目標値の3%減となった。

（電気使用量は全て・事務所空調&灯火）

6、今後3年間の環境経営目標

- 1) 令和 7年度の二酸化炭素排出量は、前年実績比 1%削減とします。
以降は、前年比 1%削減とします。
- 2) 廃棄物排出量は、量の目標は立てずマニフェストにて適正管理します。
- 3) 令和 7年度以降の地下水の使用量は、降雪の有無によって大きく増減するため、
目標は立てない。
- 4) 環境に配慮した自動車の販売は、前年実績と同様に維持します。

(1) 二酸化炭素排出量

①本社工場

	単位	令和 6(2024)年度 実 績	令和 7(2025)年度 目 標	令和 8(2026)年度 目 標	令和 9(2027)年度 目 標
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	120,708	119,501	118,306	117,123
総在庫台数	台	6,131	—	—	—
総在庫台数原単位	kg-CO ₂ /台	19.7	—	—	—

環境に配慮した自動車の販売

	単位	令和 6(2024)年度 実 績	令和 7(2025)年度 目 標	令和 8(2026)年度 目 標	令和 9(2027)年度 目 標
低公害車の販売	%	100	100	100	100

②白山店

	単位	令和 6(2024)年度 実 績	令和 7(2025)年度 目 標	令和 8(2026)年度 目 標	令和 9(2027)年度 目 標
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	15,608	15,452	15,297	15,144
販 売 台 数	台	21	—	—	—
台数原単位	kg-CO ₂ /台	743.2	—	—	—

③TM西泉店(保険部)

	単位	令和 6(2024)年度 実 績	令和 7(2025)年度 目 標	令和 8(2026)年度 目 標	令和 9(2027)年度 目 標
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	11,795	11,677	11,560	11,445
損 害 保 険 実 績	万円	24,918	(目標は保険部にて設定)		
損害保険原単位	kg-CO ₂ /万円	0.47	—	—	—

(2) 廃棄物排出量(全店)

	単位	令和 6(2024)年度 実 績	令和 7(2025)年度 目 標	令和 8(2026)年度 目 標	令和 9(2027)年度 目 標
廃 油 (有価物)	kg	—	* 量目標は立てない。 マニフェストにより適正管理。		
廃タイヤ	kg	—			
廃プラスチック	kg	—			

(3) 水の使用量(本 社)

	単位	令和 6(2023)年度 実 績	令和 7(2024)年度 目 標	令和 8(2025)年度 目 標	令和 9(2026)年度 目 標
本 社 (上水)	m ³	260	257	255	252
(地下水)		831	* 量目標は立てない。		

(4) 最大デマンド値の低減

- 1) 7月より電力会社を、レジル(株)から日本テクノ(株)へ変更し、最大デマント値を下げるため、スマートクロック・メーターを設置。

・* 30分デマント値を目視管理し、基本料金の低減を図る。



①スマートクロック(塗装工場)



②スマートメーター(事務所)

(4) その他

- 1) コピー紙, リサイクルトナー等の使用

2) ペーパーレス化

①社内グループウェアシステムの活用

- A) 周知徹底事項の連絡は、各個人に《メール》又は《回覧板》にて配信。
- B) 月頭朝礼資料(10枚×38名=380枚)は配布せず、各自社内グループウェアシステムにて確認する。
- C) 従来コピーにて保存していた(主に車検証、車庫証明控えなど)書類は、スキャン⇒PDFにてデータファイルに保管
- D) 正式書類以外のコピーは、積極的に裏紙を使用

3) 継続検査申請のワンストップサービスへの対応

保安基準適合証発行は実施済み⇒サケンステッカー発行まで実施

4) 自動車特定整備制度への対応

スキャンツール及びエーミング用機器一式を購入済み。

5) IT 機器の活用による 事務処理の効率化及び帳票の廃止

- A) 大型モニターを導入し、管理ボードの廃止。
- B) タブレット(各個人)導入により、現場で伝票インプット。
- C) 電子帳簿保存法の実施

7. 令和 6年度の環境経営計画と結果・評価

目 標	具 体 的 取 組	評 価	担 当
二酸化炭素排出量の削減	1. 環境活動計画チェック表の記入	○	山川
	2. 車両燃料削減の取組		
	・アイドリングストップ・駐車場でのエンジン停止	○	全員
	・急発進、急加速等アクセル操作で優しい運転	○	全員
	・定期的なオイル交換	○	山本
	3. 電力の削減の取り組み		
	・遠赤外線ストーブ時はタイマー設定(飯金)	○	ナイン
	・昼食時・不在時は消灯の徹底	△	全員
	・OA機器のon-offの徹底	△	全員
	・事務所温度 夏場26℃、冬場20℃	△	全員
廃棄物排出量の削減	1. 一般廃棄物		
	・分別回収の徹底	○	全員
	・資料・書類の簡素化	○	全員
	・両面コピー、裏紙利用の徹底	○	全員
	・使用済封筒の再利用	△	全員
	・e-mail等の電子媒体の積極的使用	○	全員
	* 不要な書類を作成しないこと	△	全員
	ミスの少ない書類を作成すること	△	全員
	コピーミスをしないこと	△	全員
	2. 産業廃棄物		
	・分別回収の徹底(表示も)	△	全員
	廃棄物置場の整理・整頓・清潔・清掃	○	松田
	・マニフェスト管理台帳での管理 発効日、種類、量、E票返却日、保管等	○	山川 (河野)
	・産業廃棄物処分業者との契約書、許可証 を定期的に確認する	○	山川
	・廃棄物処理フローの作成	○	山川
水使用量の削減	・水使用量の記録	○	山川
	・地下水の流量計設置	済	――
	・洗車時の節水を徹底	△	全員
	・『節水 水を大切にしましょう』の掲示	△	山川
	・水道配管の漏れチェック	○	山川
環境に配慮した 自動車の販売	・コンサルティング活動の実践	○	全員

8. 令和 7年度の環境経営計画の具体的な取り組み内容

令和 7年度の環境経営計画については、令和 6年度の環境経営計画と同様な取り組みを展開する。

9, 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法規名	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
フロン排出抑制法	業務用エアコン、第一種特定製品の廃棄時
自動車リサイクル法	使用済み自動車
廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃掃法)	産業廃棄物(金属くず、廃プラ、廃ガラス、廃油等)
騒音規制法	コンプレッサー
振動規制法	コンプレッサー
道路運送車両法	車両の管理・整備
自動車NO _x 、PM法	自動車排出窒素酸化物等の排出抑制
消防法	危険物の保管

*** 過去3年間、環境関連法規及び苦情などはありませんでした。なお、関係当局より違反、訴訟等の指摘は過去には一度もありませんでした。**

環境関連法規に関しては自らが定期的に順守状況をチェックしています。

10, 代表者による全体の評価と見直し・指示

1) 事業体系について

① 本社は、

- A) 既存客へのサービスの充実及び地元顧客の掘り起こしに努める。
- B) 車検・定期点検・用品販売・保険加入など、攻めの営業を推進する。
- C) 新車・中古車の販売を強化する。(展示場整済)
- D) 継続検査申請のワンストップサービスへ対応
 - ・ 車検ステッカー発行
- E) 自動車特定整備制度へ対応済
 - a) 特定整備事業の認証取得済
 - b) 電子制御装置への整備機器導入済
- F) IT 機器の活用による 事務処理の効率化及び帳票の廃止
 - a) タブレット導入(現場でのインプット)済
 - b) 受付・管理ボード廃止 ⇒ 大型モニター設置済

② 白山店は、

- a) 『新しい車の乗り方』の周知徹底に努める。
- b) 車検・点検整備、一般整備、用品販売を強化する。

③ 保険部は、

金沢駅前「フォーラス」に出店、広く一般顧客の掘り起こしに努める。

2) 『環境に優しく』をテーマに、

- ・ 本社は平成26年より【水性塗料化】のテストを実施し、全面実施済。
- ・ 産業廃棄物の分集を徹底し、経費節減に努める。

2025年 2月 17日
代表取締役社長
室谷 真一

以上